

松葉屋通信

matubaya-tushin vol.20
2011.3.10

「ピカソのような絨織」との出会いが、
新しい扉を開くきっかけを作ってくれました。



MOROCCO Art l'atlas

モロッコ ■ アール・ラトラス



松葉屋家具店
＋
くらし道具学研究所

アートギャツペ選定人として知られる今井正人さんの、
新たな取り組みについてお聞きしました。



Sanpousha
三方舎

松葉屋とギャツペを結んでくれた今井正人さん。いままでにも折々にご紹介させていただいた、絨織選定の第一人者です。
その今井さんが、今、真正面から取り組んでいる仕事。その軸脚をモロッコに据えてはじめたコトについて、善五郎さんが聞きに行きました。

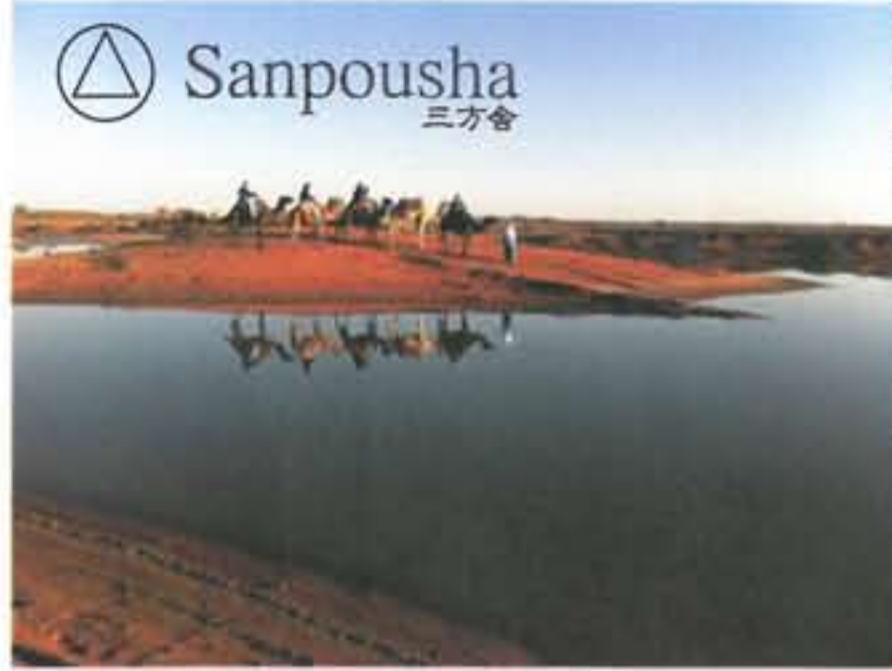
三つのプロジェクトのこと、設立した『三方舎』のこと、モロッコの人々との関わり…、お話しを、聞けば聞くほど、興味深く、またどんどんと広がって行く展望に。もしかしたら善五郎さんのほうが夢をふくらましてしまったかも？



MOROCCO Art l'atlas

モロッコ アール・ラトラス

北アフリカ北西部マグリブの先住民たちの手織物「アール・ラトラス」そのデザインの素晴らしさに、『ピカソの絵のような織物』と称されています。近代的な工業手法をとらず、ほとんどの工程を熟練した人の手による技術で行い、素材もマグリブの高原で生きた状態で刈り取られる上質な生羊毛を草木(一部化学染料)で染めた、艶やかさと弾力に富んだ糸と深みのある色彩が特徴。使い込むほどに表情豊かに育っていきます。
(三方舎ホームページ ■ <http://www.sps-i.jp>)



北アフリカ、マグリブの先住民ベルベル族の間で古くから織られていたベルベル絨氈。今からおよそ100年ほど前に持ち込まれた化学薬品・化学染料によって、あっという間に、それまでの草木染めによる染色技術が途絶えてしまいました。

2001年、マグリブ地方の染色技術の研究者であるオーストリア人の大学教授ウィルフェード博士により、失われた草木染色の伝授が始まります。気候・風土・環境に優れた、モロッコ南東の小さな山村、アイト・ホゼマ村/イマシム村が選ばれ、また今年から新たに絨氈専門家が加わりました。製作工程に一切の機械作業、化学物質を含めない、100%天然素材をもとに村人たちを中心にした、上質ベルベル絨氈を復活させるプロジェクトの始動です。

Project 1 ⇄ 100年前の染色・織り技術の復活

Project 2 ⇄ 世界遺産で暮らす、最後の若き木工作家



7世紀にアラブ人の侵攻により逃れてきた先住民たちが安住のために築き移り住んだカスバ(城砦)。数あるカスバの中でも最も代表的な Ait Ben Haddou (ユネスコ世界遺産)。数々の映画のロケ地としても有名なこの地に今でも暮らしているのは5~6家族のみ。そのうちの軒オウティ家は、代々カスバの窓を守るカラクリ錠前などを作る木工作家の家です。以前は数十軒あった木工作家も現在は一軒のみ、病気がちのお父さんを支える18才のモハメド君が、最後の若者です。この地での手作り木工技術を絶やさぬように、モハメド君の創作活動を支援し、技術の継承を行っていくプロジェクトです。

Project 3 ⇄ SABRA-サブラ- 生地そのものの美しさを伝えたい

アラビア語でサポテンを意味するサブラ。アロエベラから作られる植物繊維で、『モロカンシルク』とも呼ばれます。伝統的には、モロッコパプーシュや民族衣装の刺繍やボタンなどに使われてきました。美しい光沢は繊維そのものが三角形構造であること、光をプリズムのように反射します。また、摩擦などにも強く、雰囲気のある独特の配色など、『一生布』として紹介していきたい、とても魅力的な素材です。



モハメド君の作ったカラクリ錠前を手にする今井さん。この文様はアマ・ズイクと云って「乙」を表わしている。ラテン文字の最初の文字は、これ以上のものは存在しない。最終や最高を意味する。象形文字では波や起伏ある土地。



モロッコは、僕にとって「モノ」ではなく「コト」
善五郎 ■ まずは、一番素朴な疑問なのですが、なぜモロッコ?
今井さん ■ もちろん僕の出発点はギャツペにあります。10年間ギャツペに関わることで、自分が思っていた以上の世界が広がりました。それまでの自分では思ってもみなかったほど「力」もついたと思っています。けれどもイランの人々に対して、自分ができることって、正直あまり残されていない気がしてしまっただけ。ギャツペは僕が関わる前から、ある程度「道」ができていて、僕はその中でギャツペという「モノ」を売っていた。満足感にはありませんでした。でも何か、良く分からないけれど、「ムズムズ」した「何かエネルギーの方向性が定まらないような感覚」が年を重ねるにつれて大きくなってきてしまったことも事実です。そんなモヤモヤした状態の中で出会ったのが、モロッコでした。モロッコは、僕にとって「モノ」ではなく「コト」になる！直感でした。
善五郎 ■ それはうらやましい。そのとき感じたモロッコって？
今井さん ■ なんともいえない、すごい魅力的だった。どんな国とも違う「表情」があって、アフリカとヨーロッパとイスラム文化が交錯した長い長い歴史(人々の生活も含めた)が背景にあることや、地中海のさざ波とサハラ山並みを見続けた民族の感受性によるものなのかなあ。



善五郎 ■ そう感じられたということは、モロッコも「待っていてくれた」ということかもしれないですね。
今井さん ■ だいたいけど(笑)。でもタイミングというかは良かったと思います。
再現した絨氈の完成度を上げるべき時期に、自分が出会った
ちょうど11年ほど前に、オーストリアの研究家が、途絶えてしまった草木染のベルベル絨氈(モロッコのアトラス山脈に住む先住民族ベルベル人が織ってきた伝統的絨氈)の復活を試みていたこと。その先生と村人たちの間に素晴らしい信頼関係が作られていたこと。再現した絨氈の完成度を上げるべき時期に、自分が出会ったこと。そんなことを考えると、自分の「やるべきこと」が「必然」だったと、考えたいですね。

善五郎 ■ フィールドを変えて取り組みはじめたモロッコですが、絨氈だけでなく、広い関わりを考えているのですか。
たとえば
工芸村のようなものを作りたい!
今井さん ■ モロッコにはまだまだ知られていない工芸品がたくさんあるのです。絨氈の他ふたつは、世界遺産にもなっている要塞都市アイト・ベン・ハドゥで暮らす木工作家の支援。家々を守る錠前には伝統文様が彫られています。そして三つめはサブラ。サブラはサポテンを表わすアラビア語です。絹のような光沢のある生地で、この美しい生地を身近なストールや赤ちゃんのスリングとして紹介したいと思っています。それで作り手が制作に打ち込める環境(たとえば工芸村のような)を作りたい!



これまでの活動、これからの展望

Project ■ 1

2011年秋 始動、現有染色技術をもとに、更なる織り技術の指導向上
2012年春 デザインの提供、制作開始
2013年1月 ドイツDOMOTEXに出展
2013年春 日本先行発売予定
2014年1月 ドイツDOMOTEX CARPET DESIGN AWARDS (最高のオスカー賞と言われる)
category4.5 Best Traditional Nomadic Design Superior/Deluxe部門エントリー予定

Project ■ 2

創作活動支援内容 活動を理解していただける企業さまの記念品、プレゼント品などにモハメド君の木工品を使用していただく。ストラップ・ネックレス・ペンケースetc.

近江商人の『三方よし』

って考え方、

いいなって思っ

善五郎■ところで新しく設立した『三

方舎』ってどんな意味ですか？

今井さん■近江商人の言葉なんだけ

ど、『三方』っていうのは『売り手よし』

『買い手よし』『世間よし』っていう精

神なの。ここでいう『世間』は環境や

地域社会のことなんだけどね。これ

を少し読み替えて、『世間よし』を『作

り手よし』って考えてみました。

『売り手』は、『志』を持っていること

が大切だと思ってるんです。自分の

ことだけ考えるのではなく、自分が

商品を『売ること』によって生じる、

まわりにおよぼす影響を、できるだ

けよいものにした。『買い手』の満

足感はもちろん、それを手にした人が

自分の購入したものの背景に思いを

巡らしたり、『ずっと大切にしよう』

って思ってくれたら、本当にうれし

いと思う。ものを買ったことで『しあ

わせ』を感じることが、長く感じるこ

とができると思う。

それから、ここからが僕の強い思い

なんだけど、『作り手を大切にしたい』

っていうことなんです。

作り手を本当に大切に

することって、長い時間

軸が必要だと思う。

ものを作ることで感じる『喜び』と同

じくくらい大切な『暮らしが立つ』こと

収入が安定しないと『もの作り』は長

く続けていくことはできないし、長

く続けられないということは、技術

の継承ができない、ということ。

こういう『あたりまえのこと』が定着

して、それぞれの伝統が絶えずに根

付いていくことに、僕も『力』を注い

でいきたい！って思うんです。

善五郎■そっかー。三方舎の『売り手

よし、買い手よし、作り手よし』は、結

局のところ実現すれば『世間よし』

ってことになりますね。

『商売する』という意味を、

もう一度考え直してみ

たかった。

今井さん■そうだったら、ホントう

れしいなあ。一代じや無理かもしれない(笑)。でも世代を超えて、そんな

考え方が広がって、繋がっていった

らいいな。それこそ、『モノ』じゃなく

て『コト』になったってことかもしれ

ないですね。

善五郎後感

自分のまわりに、こういうエネルギー

を持った人がいてくれてしあわせ

だと思う。絶対応援していきます！

これはベルベル人の旗

ベルベル人は、北アフリカ(マグリブ)の広い地域に住む先住民です。ヨーロッパではBerberと表記されますが、自称はアマズィークといい、「高貴な出自の人」「自由人」を意味します。複数形になると、イマジゲン(イマーズィーゲン)となります。(イマジンみたいでカッコいい)。モロッコでは平野部にアラブ人が暮らし、1/3を占めるベルベル人は、大半がアトラス山脈に住んでいます。



松葉屋家具店+くらし道具学研究所
〒380-0841 長野市大門町45
since1833@matubaya-kagu.com
TEL026-232-2346
FAX026-237-4558

☎ 0120-55-2346

(水曜定休)

© 松葉屋家具店+くらし道具学研究所
Copyright 2011 Matubayakaguten Co., Ltd.
All rights reserved.
文とデザイン * kai・pan